



( 2 ) 目指すべき方向性

休日夜間急患センター又は準夜間急患センター等の設置が望まれる(医療スタッフ等の確保も必要)。

住民に対して救急医療の適正受診についての啓発活動を強化する。

医師、医療スタッフの働き方改革との整合性を確保する。

かかりつけ医機能のさらなる充実を検討していく。

2 公衆衛生分野について

( 1 ) 現状

項目	データ
学校医 ( R1 年度 )	3 5 人 ( 3 1 校 )
予防接種を実施する医療機関 ( 市町村委託 )( H30 年度 )	3 1 医療機関
医療圏で活動する産業医 ( R1 年 10 月 )	3 3 人

【出典： 阿蘇教育事務所、阿蘇都市医師会提供 熊本県総合医療情報システムくまもと医療ナビ  
日本医師会調べ】

学校医

阿蘇郡市内の 3 1 校で、必要な学校医師数は延べ 6 7 人だが、3 5 人の医師で兼務等により対応している。

- ・ 外来診療で手一杯であり、学校医業務との時間配分に苦慮している。
- ・ 眼科医は複数校を掛け持ちしており、耳鼻科医は他圏域からの応援で対応している。

予防接種を実施する医療機関

当医療圏では、3 1 医療機関が予防接種を実施している。

- ・ 外来診療との時間配分が困難なうえ、予防接種スケジュール等の複雑化による医療過誤発生が懸念される。
- ・ 請求事務が煩雑で負担となっている。

産業医

当医療圏では、3 3 人の医師が産業医活動を行っている。

- ・ 外来診療との時間配分が困難である。
- ・ 産業医の更新手続きが負担となっている。
- ・ 5 0 名に満たない中小企業等でも産業医としての拘束時間が長くなる傾向にあり、対応が難しくなっている。

( 2 ) 目指すべき方向性

学校医

専門領域外への対応支援（協力医）強化が必要である。

予防接種を実施する医療機関

請求事務の簡素化や市町村との連携強化が望まれる。

産業医

産業医の支援体制強化として、県から専任の産業医を派遣する等の制度の確立や、事業者との連携・意思疎通が必要である。

阿蘇郡市内でも更新手続きに必要な研修が受けられるなど、研修制度の充実も必要である。

3 在宅医療について

( 1 ) 現状

項目	データ
在宅医療を実施する医療機関 (アンケート回答実施医療機関)(R1 実施)	29 医療機関 (22 医療機関)

【出典： 阿蘇在宅医療システム研究会。アンケート実施（35 医療機関中 30 医療機関が回答）】

在宅医療について 35 人の医師が対応している。

- ・ 外来診療と訪問診療の時間配分や医療スタッフの確保が困難である。
- ・ 現在の労働量で対応するのが精一杯で、人員や設備を増やすための財政的支援もないため、現状維持も困難である。
- ・ 24 時間 365 日の対応が困難である。
- ・ 在宅医療専門医の制度も、阿蘇圏域では、時間的、地理的な理由から活用は困難である。

( 2 ) 目指すべき方向性

在宅医療サポートセンター（北部：小国郷医療福祉あんしんネットワーク、中部：阿蘇郡医師会・阿蘇医療センター、南部：阿蘇立野病院）の機能充実が望まれる。

かかりつけ医制度の充実や他関連職種及び関連施設との連携強化が必要である。

診療報酬上の優遇策が望まれる。

くまもとメディカルネットワークの充実を図っていく。

#### 4 医療機器の状況

##### (1) 主な医療機器の配置状況

機器名	保有台数	機器名	保有台数
C T	7台	マンモグラフィ	2台
M R I	5台	リニアック	0台
P E T	0台		

【出典：平成30年度病床機能報告、熊本県総合医療情報システムくまもと医療ナビ】

##### (2) 目指すべき方向性

現状においても、医療機器の共同利用を行っており、今後も引き続き、地域における共同利用を進める。